

柳津町第三セクター等経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和4年2月28日

作成担当部署 柳津町総務課

2 第三セクター等の概要

法人名 一般財団法人やないづ振興公社

代表者名 理事長 矢部良一

所在地 福島県河沼郡柳津町大字柳津字諏訪町甲 61-2

設立年月日 昭和55年4月1日 財団法人設立

平成25年4月1日 一般財団法人移行

資本金 3,000 千円

【当該地方公共団体の出資額(出資割合)3,000 千円(100%)】

業務内容 柳津町つきみが丘町民センター、柳津町観光物産館、柳津町観光休憩施設、柳津町西山温泉山村公園、柳津町森林公園の運営管理

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

財団法人として公社設立以来、令和2年度まで41年間経営を続けてきた中、現在、世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症の影響により、最大の運営危機に置かれています。数回にわたる緊急事態宣言や福島県の非常事態宣言により、施設の休業や利用者の制限、営業の一部自粛等を行わざるを得なく、売上は公社全体として前年比72.2%、72,621千円の減少となりました。

各施設の前年比較では経営の根幹であり、宴会・宿泊業を主体とするつきみが丘町民センターが地元の会合や複数での飲食が皆無となり、また緊急事態宣言期間は、該当地域の方の宿泊受入を自粛するなど、地域住民の安全を優先に運営を行ったところ前年比63.9%、37,905千円の減少となったものです。

道の駅として営業する観光物産館ではゴールデンウィーク中の全国的な緊急事態宣言での休業、度重なる緊急事態、非常事態宣言による地域をまたぐ移動制限で観光客が大幅に減少し、前年比81.2%、16,870千円の減少となったものです。

観光休憩施設では、円蔵寺十三講詣りと連動する赤べこ絵付けやあわ饅頭作り体験等の団体旅行プランが中止となり前年比79.8%、8,828千円の減少となったものです。

西山温泉山村公園では、過疎化等による人口減少が著しい地域で、法事や宴会等の利用が減少しつつあった中、コロナ禍により会食が皆無となり、前年比60.4%、9,001千円の減少となったものです。

森林公園では、コロナ禍と併せ利用者が減少している中、熊や猪の出没による利用制限も行っ

ており、前年比 83.8%、17 千円の減少となったものです。

(別表参照)

令和 2 年度の町からの支援は、町内の民間事業者との公平性から直接的な支援策は講じておらず、国や県の持続化給付金や雇用調整助成金、安定助成金を基に、自力での経営改善に努めてもらっているところです。なお、運営資金のためやないづ振興公社が公庫から直接借入れを行いました。

(別表)施設別売上額比較表(単位:千円・%)

施設名	令和元年度	令和 2 年度	前年度差額	前年比
つきみが丘町民センター	104,862	66,957	△37,905	63.9
観光物産館	89,733	72,863	△16,870	81.2
観光休憩施設	43,776	34,948	△8,828	79.8
西山温泉山村公園	22,723	13,722	△9,001	60.4
森林公園	105	88	△17	83.8
計	261,199	188,578	△72,621	72.2

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

やないづ振興公社は、昭和 55 年 4 月の営業開始以来、県内外からの誘客そして交流人口の増加による地域産業の活性化に貢献し、町観光振興の中核的役割を担うとともに、町が行う教育、文化、産業、福祉等の事業に対して協力し、明るく住みよい郷土の建設に寄与することを目的として事業を行ってきました。

現在、やないづ振興公社の管理する公の施設は地域振興・活性化を図る上で必要不可欠な拠点施設であるため、今後も引き続き公益法人として事業を展開するとともに、公社の現状と課題の分析を行い、経営改善に努めていきます。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

管理する公の施設は本町の観光・交流拠点及び地域活性化の中心施設として位置づけられているため、経営改善のため、各部門のあり方等を抜本的に見直し、公益法人として、町内はもとより、県内外から多くの誘客に取り組み、交流人口の増加、売上額の増収増益を目指します。

また、売上高確保だけを目的とした実施ではなく、経営状況に対して、全従業員の危機意識や経営の参画意識を高めて日々の経営に取り組むための意識改革に取り組めます。

町は、令和 3 年度より施設の利用料を値上げし、早期に経営体質の強化を図るとともに、コロナ禍の影響による売り上げの減少を勘案した指定管理料により支援します。また財政リスクを抑えるため、定期的に点検・評価を行い、決算後には経営状況の確認や実施事業を改めて評価をし、助言・指導 を随時行うこととします。令和 3 年度の経営黒字を目指します。

6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
	資産総額	25,761	22,033	42,875
	(うち現預金)	11,151	8,760	27,816
	(うち売掛金)	2,849	2,679	4,742
	(うち棚卸資産)	7,564	6,540	6,370
	負債総額	17,802	16,796	57,696
	(うち当該地方公共団体からの借入金)			
	純資産額	7,959	5,237	△14,821

損益計算書から	項目	金額(千円)		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
	売上総利益	286,288	275,956	204,467
	販売費及び一般管理費	283,834	278,605	224,454
	経常損益	2,454	△2,649	△19,987
	当期純損益	7,959	5,237	△14,821